

情報、意見交換会（第4回） 報告書

2012・05・10

会場 武蔵野市立かたらいの道市民スペース
日時 2012年4月8日(日) 13:30～20:00
参加者 正会員 森田宏幸・笹木信作・杉野左秩子〔3名〕
無料正会員 宇田明彦・大和直道・宇代祐規・生嶋真五郎〔4名〕
賛助会員 松原広幸・杉浦邦充〔2名〕

キャンセルや連絡なしに来なかった申込者が3名出て、
残念なことに参加者がこれまでより減少した。

第4回 司会の森田氏が、新しい議事の進め方（何を・どうして・誰が）を説明した。
その後、ルールについての説明及び自己紹介をし、お題に入った。
お題は、担当者がはじめに設定したものに加え5つのお題を参加者が持ち寄った。

情報意見交換会のルール

- ① 発言するときは、まず自分の名前を言ってから。
- ② 話しかけている対象をはっきりさせた発言をする
- ③ 聞いた話は、出自をあきらかに
- ④ 全員1会員として発言をする(理事も参加しているが、彼らの発言も報告は別にして理事会を代弁するものではない)
- ⑤ 話された内容などはホワイトボードに書き、参加者でチェックした後写真を撮ってそれを記録とする。これを提案や要望・意見として理事会へあげる。

{お題1} 総会について

今年の6月総会において理事・監事の選挙がある。

その選挙方法についての提案や、無料正会員の議決権が現在 喪失していることなどについて話し合った。

次第に、総会に出るなどの行動をしない会員たちからの声の吸い上げに話が移行していった。

<発言 1-01>

理事選挙の議決権を持つ会員が多い場合は、候補者のバーコードを作って、投票者が選択して投票してはどうか？誰に投票したのか分からないので良い。

<発言 1-02>

無料正会員が議決権を喪失することによって、どのような意見が失われるのか？

具体的にあげていただければ理事会は対応を検討できる。

<発言 1-03>

無料正会員の議決権喪失前は、「JAniCA はアニメーション界全体の組織」というイメージが周囲にあったように思う。しかし無料正会員の議決権喪失後は、限られた人(正会員)のための組織になったような拒否反応を、周りの人から感じた。

しかし、今では時間が経過しており、周囲の興味自体がなくなっている。

<発言 1-04>

前回の理事選挙では、無料正会員を含む正会員に選ばれた人たちが理事になった。無料正会員たちにも選ばれたにもかかわらず、無料正会員の議決権を奪う行為には違和感がある。

<発言 1-05>

自分は意見交換会などを経て、無料正会員が議決権を喪失した経緯の理解をした。

しかし、行動していない会員には届いていないのではないか？

いまの JAniCA により多くの賛同を得るためには、より分かりやすい、見やすい発信をしてゆくのが良いのではないか。

<発言 1-06>

他の組織でも、総会に出る人は少ない。しかし、声を出さないが見てはいる人は大勢いる。その人たちからの声を得たいと思うなら、広報活動により力を入れたうえで、その人たちから声を聞く仕掛けを作ると良い。

例として定期的なアンケートなど。

今後の方向性を出すときに「～についてどう思いますか？」という類のアンケートをする等、返しやすい形で。無料正会員に向けて広報活動を続けることが重要。

<発言 1-07>

ネット利用でアンケートをとると、年齢が高い会員の意見がこぼれやすいので注意した方が良い。

<発言 1-08>

総会のお知らせなどの機会を捉えて、出欠確認通知に自由に意見が書けるスペースを設けるなどし、意見を吸い上げてはどうか。JAniCA からアプローチしているというアピールにはなる。

<発言 1-09>

JAniCA は正会員のためだけのものではなく、業界全体のものだと思う。

無料正会員が無料正会員でいる理由は何であろうか？

無料正会員の立場を大切にして欲しい。講座などに申し込みやすい配慮をお願いしたい。

<発言 1-10>

アンケートといえば、以前アニメーターの実態調査をやり、若手育成事業に繋がるなど効果があった。実態調査を定期的に行ってもよいのではないか？データの比較もするべき。

<発言 1-11>

これについては、もう少し時間を置いてから行ったほうが良いとの考え方もある。

<発言 1-12>

理事会の議事録が昨年 10 月から出ていない。広報活動としては良くないのでは？

<新しい議事の進め方（何を・どうして・誰が）をもとに参加者で確認したこと>

何をするのか？ アンケートをとってみる

なぜ？何のため？ 会員たち、あるいは業界からの意見の吸い上げ。

誰が？どうやって？ JAniCA 主体。アンケート用紙(郵送?)、メールなどで。

{お題 2} 現場の担当者レベルでのコミュニケーションの必要性

アニメミライの記者会見をみたところ、「現場が細分化されてベテランが新人に教える機会がなくなっているため、若手育成の事業が出来た」との話を聞いた参加者から、自分の職業は別の分野だが、同じようなことがある。

アニメーションのスタッフ同士のコミュニケーションが薄いのは心配だ。現場のスタッフたちが話し合う機会を作る方策はないだろうかという趣旨のお題が出された。

<発言 2-01>

自分が所属している会社についていうと、以前は原画担当者が動画をチェックしていたが、最近はそれがなくなった。

<発言 2-02>

徒弟制度が減ってきている。動画は外注がさらに増え、技術の継承が困難になっている。教室(講座?)や懇親会を多くやる、などの方法はどうか？

<発言 2-03>

むしろ現場のコミュニケーションはシステムで支えてゆくべき。

デジタル化した作業工程の中でスタッフ相互のやり取りを支援してゆく仕組みを作る方法がある。

<発言 2-04>

タブレット作画へ移行できれば、可能性はある。

<発言 2-05>

JAniCA に、コミュニケーションがよいとされる現場からインタビュー等を取ってもらい、情報を発信してもらおう。

<発言 2-06>

手本となるアニメーターさんの基本動作を撮影してライブラリを作る。

<発言 2-07>

そういったことは若手育成事業がやっているはずだが、その報告書が図書館にあるだけで

は会員への還元にならない。

<発言 2-08>

第 3 者に役立つように、若手育成事業の作監修正のプロセスを記録して、報告書に反映させて欲しい。

<発言 2-09>

若手事業の内容が公開されるなら、失敗している原画の修正例は是非欲しい。

<新しい議事の進め方（何を・どうして・誰が）をもとに参加者で確認したこと>

何をするのか？

*コミュニケーションがうまくいっている会社のインタビューを取って公開する。

*コミュニケーション不足で失われる技術・教育の補完として手本アニメーターの基本動作、若手育成事業の作監修正などをライブラリーとして公開する。

なぜ？何のため？

*アニメ製作現場のスタッフ同士のコミュニケーションが薄い。
*技術の継承

{お題 3} アニメーション製作の標準化

アニメーションの現場で“標準化”をできないか。

技術だけでなく、マネジメントも含めて考えてみては？初めてこの業界に参入する人の手がかかりにもなる。という参加者からのお題について話し合った。

<発言 3-01>

技術の底上げにはなる。現場もスムーズに動くかもしれない。

しかし、アニメーションの作り方は、製造ではなく開発に近いので、難しいのではないかな。

<発言 3-02>

工業の分野でカラーコーディネートの技術の基準作りをなさった方に聞いたことがあるが、大変だったそう。業界全般の第 1 人者すべてに聞き取りをしたそう。

<発言 3-03>

ノウハウについては難しい。ツールの使用方法は可能。

<発言 3-04>

タイムシート・レイアウト用紙は統一したい。

<発言 3-05>

タイムシート・レイアウト用紙に関しては動画協会が出しているようだ。

<新しい議事の進め方（何を・どうして・誰が）をもとに参加者で確認したこと>

何をするのか？

*技術の標準化（JAniCAの業界標準）

*基礎技術・知識のアーカイブを作る

なぜ？何のため？

*アニメーションの製作技術についてJAniCAの業界標準を作ることには意味があるだろう。技術の底上げにも繋がるし仕事をスムーズにする。新人育成にも繋がる。せめて基礎技術のアーカイブ化だけなら可能ではないか。

{お題4} 社会貢献活動(ボランティア)をしてはどうか？

文化庁の若手育成事業でJAniCAにお金が入っているのだから、社会貢献をした方がよいのではと思う。

例として、障害者や入院されている方へ向けてワークショップなどが考えられる。

参加者からのこのような趣旨のお題が出された。

<発言4-01>

動画協会では、被災地に行ってやったらしい。

<発言4-02>

文化庁、若手育成事業の予算は、JAniCAに入っているわけではない。

その金をJAniCAが自由に出来るものではない。

<発言4-03>

「アニメーションで日本を元気に」をやってみたが、プロアニメーターからの投稿がない。

仕事を通じての社会貢献がまず第一であろう。

{お題5} 新規プロジェクトのスタッフをJAniCAを通じて募れないか？

アニメーションの新規プロジェクトを立ち上げるとき、広くスタッフを集めるため、JAniCAを通じてプロジェクトの人材を募集したり、紹介してもらったり、オーディションのお知らせをするなど出来ないか？可能性を知りたい。

という参加者からのお題を話し合った。

<発言5-01>

以前は、会員通信で募集などをしていた。

<発言5-02>

業界全体の利になることなら可能性がある。

しかし、告知以上のことは JAniCA では、やらない。

<新しい議事の進め方（何を・どうして・誰が）をもとに参加者で確認したこと>
何をするのか？ *スタッフを JAniCA を通じて紹介してもらえないか？
 *スタッフを募集できないか？
なぜ？何のため？ フリーのアニメーター・演出の選択肢を増やすため

{ 懇親会 }

第4回は、これまでの情報、意見交換会へ複数回参加してきた会員が多く、話が弾んだ。無料正会員が議決権を喪失したことが一番多く話された。

「今の無料会員たちには、芦田さんや神村さんから“無料会員でも人数がたくさん集まれば力になって、問題を解決できる”と説得されて、JAniCA を応援しようと思って入会した人たちが多。しかし、会員数が増えた今、JAniCA が業界全体のために動かず、むしろお金を払わないのはよくないといわれているような感じがしたり、無料正会員を切り捨てようとしているように見えることに戸惑っている人たちが多と思う」などの発言が出た。

一般社団法人日本アニメーター・演出協会

理事 杉野左秩子

なお、本報告書は、一般社団法人日本アニメーター・演出協会理事、杉野左秩子が自らの責任と判断に基づいて作成したものであり、筆者の所属団体の見解ではありません。